

## 16 農業農村整備事業（公共）

【321,054（308,404）百万円】

（平成29年度補正予算 137,000百万円）

### 対策のポイント

農業の競争力強化のための農地の大区画化や汎用化・畑地化、新たな農業水利システムの構築、国土強靱化のための農業水利施設の長寿命化・耐震化対策、ため池の管理体制の強化等を推進します。

### <背景／課題>

- ・農業の競争力強化を図るためには、担い手への農地の集積・集約化に向け、農地中間管理機構とも連携した農地の大区画化・汎用化や、水管理の省力化等を実現する新たな農業水利システムの構築等を推進する必要があります。
- ・米中心の営農体系から野菜等の高収益作物を中心とした営農体系への転換など、農業者の自立的な経営判断に基づく生産を促し、産地収益力を向上させるため、水田の排水対策による畑地化や水路のパイプライン化等を推進する必要があります。
- ・全国の基幹的な農業水利施設の約2割が既に耐用年数を超過していることを踏まえ、基幹的な農業水利施設の老朽化への対策を講ずる必要があります。
- ・地震・豪雨等の自然災害の激甚化を踏まえ、農業水利施設等の耐震化や洪水被害防止対策を通じた農村地域の防災・減災対策を講ずる必要があります。

### 政策目標

- 担い手が利用する面積が今後10年間（平成35年度まで）で全農地面積の8割となるよう農地集積を推進
- 基盤整備完了区域（水田）における作付面積（主食用米を除く）に占める高収益作物の割合  
（約2割（平成27年度）→約3割以上（平成32年度））
- 基幹的農業水利施設の機能保全計画の策定率  
（約6割（平成27年度）→10割（平成32年度））
- ハザードマップ等ソフト対策を実施した防災重点ため池の割合  
（約5割（平成27年度）→10割（平成32年度））

### <主な内容>

#### 1. 担い手が活躍する強い農業基盤づくり（農業競争力強化対策）

111,027（103,395）百万円

担い手への農地集積や農業の高付加価値化を図るため、農地中間管理機構との連携等により、農地の大区画化や汎用化・畑地化、畑地かんがい施設の整備等を実施します。また、パイプライン化やICT等の導入により、新たな農業水利システムを構築し、担い手の多様な水利用や水管理の省力化を推進します。

#### 2. 老朽化した農業水利施設の長寿命化（国土強靱化対策）

126,495（125,377）百万円

老朽化した農業水利施設について、点検・診断に基づき、補修・更新等を適時・的確に実施します。

#### 3. 安全・安心のための農村地域の防災・減災（国土強靱化対策）

83,531（79,632）百万円

基幹的な農業水利施設やため池等の耐震対策、集中豪雨による農村地域の洪水被害防止対策等を実施します。

〔国費率、補助率：2／3、1／2等  
事業実施主体：国、都道府県等〕

[お問い合わせ先：農村振興局設計課（03-3502-8695）]

# 農業農村整備事業

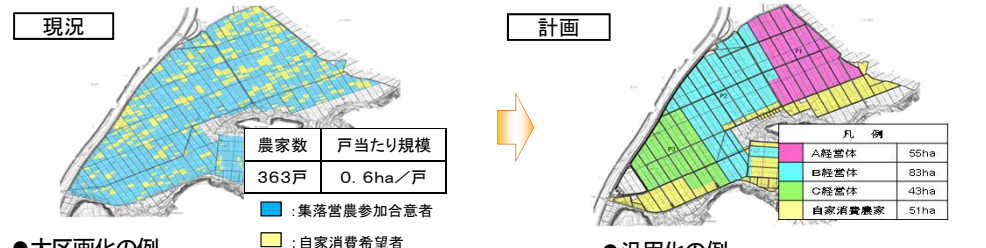
平成30年度予算概算決定額：321,054(308,404)百万円  
 (平成29年度補正予算：137,000百万円)

## 1. 担い手が活躍する強い農業基盤づくり(農業競争力強化対策)

【111,027 (103,395) 百万円】

○ 大区画化や汎用化・畑地化等の基盤整備を実施し、農地中間管理機構とも連携した担い手への農地集積・集約化や農業の高付加価値化を推進。

●農地整備を通じた農地集積・集約化の例



●大区画化の例

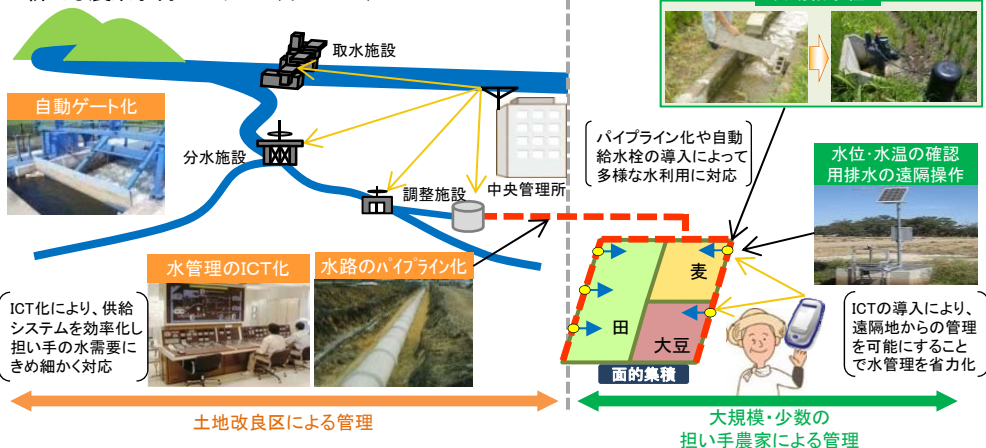


●汎用化の例



○ パイプライン化やICTの導入等により、新たな農業水利システムを構築し、担い手の多様な水利用や水管理の省力化を推進。

●新たな農業水利システム (イメージ)



## 2. 老朽化した農業水利施設の長寿命化(国土強靱化対策)

【126,495 (125,377) 百万円】

○ 老朽化した農業水利施設の点検・診断の結果をデータベース化し、補修・更新等を適時・的確に実施するとともに、突発事故の迅速な復旧や管理体制の整備を推進。

●基幹的水利施設の老朽化状況(H26) ●農業水利施設の補修・更新等



## 3. 安全・安心のための農村地域の防災・減災(国土強靱化対策)

【83,531 (79,632) 百万円】

○ 基幹的な農業水利施設等の耐震化、ため池のハザードマップ作成や管理体制の強化、農村地域の洪水被害防止対策等を推進。

●施設の耐震化 ●ため池の整備 ●洪水被害防止対策

